

# 4輪ドリフト。大デッドヒート。

じゃない。

髪の毛までも熱くなる  
ロードスター富士フレッシュマン

このレースは絶対に盛り上がる。

最優先で見に行きなさい。



注目のロードスター富士フレッシュマンレースが、ついに始まった。

レースになんか興味ない？ サーキットに行くならワインディングに行く方がいい？  
チツチツ。こ～んなに楽しい世界を自分で閉ざすなんて、そりゃもったいないぞんす。



3位争いも熾烈だった。①白元選手、②鈴木選手  
(ニッケイ)、③吉富選手による三つ巴のヒート。



環状2大決戦でもお馴染みの柳沢選手とT1ランクトップの羽岡選手による壮絶なトップ争い。この二人は今後も宿命の戦いを繰り広げそう。ドラマは動き出している。

開幕戦の栄冠は、  
驚愕の1/100秒差で  
柳沢充選手(RSライザワ)に。



7江島選手(RE用宮)とドライバー誌からエントリーのお馴染み斎藤師匠。江島選手は予選11位~決勝6位。



予選4位を獲得したユアーズの有泉店長は、決勝2周目1コーナーで2位に踊り上がる寸前に痛恨のスピンノ

ンカーがドリフトしながらヘアピンを抜けていく姿を見るだけでも新鮮だ。速い人なら100Rで4輪ドリフトになる。エントラントチームも、RSアイザワ、プロショップ・ニッケイ、ユアーズスポーツ、アクティブ、タックイン99eと、ロードスターオーナーなら気になって仕方がないショップがぞろぞろ参加しているのだ。

緒戦のハイライトは何と云ってもトップ争い。予選1位の柳沢選手(RSアイザワ)と予選2位の羽岡選手(RS松元)の2車による激しいバトルは、T1ロードスターのランキングトップは最初から最後までテールツノイズを繰り返す。最後はわずかに1/100秒差(7)で柳沢選手が栄冠をつかんだ。相手のラインを羨ましながらコーナーに入っていく柳沢選手の走りは見事という他なかったし、練習から決勝に向けてドリフト走法からグリッブ走法へと使い分けていくクレバーさにも舌を巻いた。次回ももっとセッティングが素晴らしいGTR決戦のあの前川選手も参加する。こんな面白いレース、観にいかんやもったいない!!

レースは速ければ面白くてもんじゃない。もしF30000レベルじゃなきゃ見に行く価値がないと思ってるなら、考えを改めた方がいい。例えば、フレッシュマンにはフレッシュマンならではの面白さがある。草の根レースの独特の雰囲気。ピンキリまであるドライバーのレベル。自分のテクとクラブせながら選手達の走りを見ると、いろいろと考えることも多い。そんなフレッシュマンに、いよいよロードスターレースが加わった。緒戦の開催日は9月26、27日。FC3Sとの混走で、ロードスターは「NPE」といってクラスだ。いきなり結論を言うぞ。このレース、観ているだけでアドレナリンがニジリ出し、最後には脳の中をエンドルフィンがかけめぐって陶醉状態になるほどの、とんでもなく大デッドヒートの歴史に残る(と云っていい)名レースだったのだ。

ベストラップは  
2分03秒286  
by 羽岡俊樹選手